

被災地における無形民俗文化財のアーカイブ事業（①無07-13）

目 的

被災地の無形民俗文化財に関わる情報・記録等を収集・アーカイブするサイトの構築・運営を通して、災害時の無形民俗文化財に関わる情報拠点としての新たな体制の在り方を検討する。また、被災地での現地調査を行い、流失した民俗文化財の記録や、情報の収集作業・発信に当たる。

成 果

24年度に引き続き、被災した無形民俗文化財に関わる被災情報、支援情報、復興情報等について、関係行政や民間団体等と協働で収集。25年3月に立ち上げた無形文化遺産情報ネットワークサイト上において、昨年度公開した「民俗芸能マップ」に加え、本年12月には「祭礼行事マップ」を立ち上げ、被災地域における当該文化財の被災・復興状況を随時更新・発信した。（<http://mukei311.tobunken.go.jp/>）また、2014（平成26）年3月5日（水）、第2回無形文化遺産情報ネットワーク協議会を東京文化財研究所において開催。東北被災地域における無形文化遺産の復興支援に関わる様々な分野の関係者約36名と共に今後の支援の在り方について協議した。これらの活動の成果は報告書にまとめ、25年度末に刊行した。

また24年度に引き続き、被災地域における民俗文化財の記録の在り方や方法を検証するモデルケースとするため、俵木悟氏（成城大学・東京文化財研究所客員研究員）、森本孝氏（漁村研究家）、鈴木清氏（民俗建築研究所所長）と共に岩手県大船渡市末崎町碁石地区において継続的調査を行った。成果は25年度末に報告書として刊行した。

刊行物

- ・『東日本大震災被災地域における無形文化遺産とその復興』 東京文化財研究所 14.3

備 考

本研究は、所長裁量経費によるものである。また、事業期間は2013（平成25）年4月～2014（平成26）年3月までである。